



学童保育のあ

のあだより5月号

2025.5

住所：栄区桂台西1丁目30-7
Tel/Fax：045-410-8404
✉：gkdnoah@gmail.com
運営：特定非営利活動法人
のあインターナショナルスクール
URL：https://www.noah-is.jp/

4月1日新1年生12人を迎えて2025年度が始まり1ヶ月過ぎました。

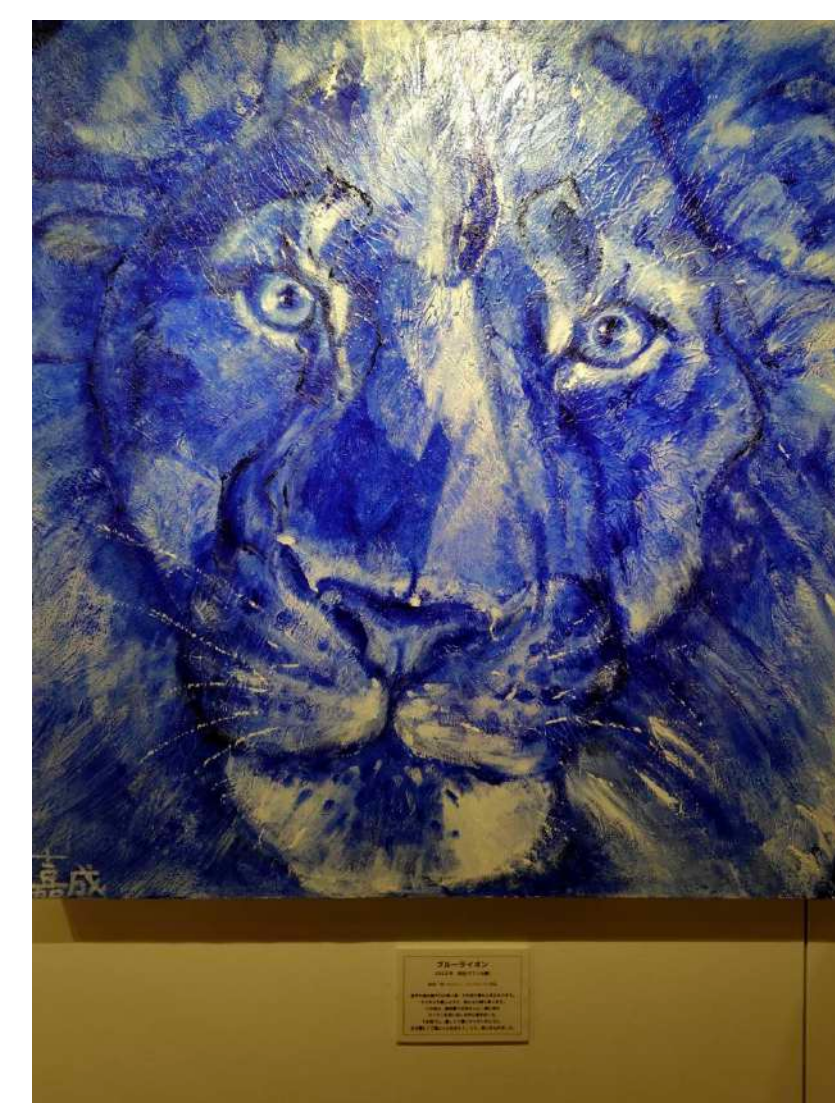
新1年生は大きな混乱もなく割合スムーズに学童生活に適應できてきたように思います。連休が明け学校も学童も本来の生活の流れに入ってきました。

さて連休中、赤レンガ倉庫1号館2F「石村嘉成展」（5月11日まで）を觀に行きました。どの絵の動物も生き生きと色彩豊かに描かれ、それぞれの眼の迫力がこれでもかこれでもかと魂を揺さぶるような勢いで迫ってきます。作品数の多さにも驚きましたし、毎夜途絶えることなく綴られてきた絵日記の絵と一生懸命に書いたであろう克明な記録にも圧倒されました。限りないエネルギーはどこからくるのか？尋常でない、誰でもできるものではない、やろうとしてもやる力量も情熱もとても及ぶものではないと驚嘆しました。

2歳の時自閉症と診斷された石村さんをトモニ療育センターで、小児科医の河島淳子先生の厳しい指導を受けながら母親の有希子さんは血のにじむような努力をして息子への向き合い方が変わっていきます。

ちゃんと座れない子を座らせる、療育のセッションを嫌がっても譲らない、「イヤだという泣きに動揺して療育の手を止めてはならない」というのが河島先生の療育の基本姿勢。「叱らないけど譲らない、毅然として向き合う」という療育のあり方は一面厳しすぎるように感じられるかも知れませんが、しかし障害のあるなしにかかわらず、生きていく力や周囲に合わせる気持ちを育て獲得していくために、親や指導者はこの姿勢、しっかり向き合って譲らない姿勢が必要かつ重要だと改めて確認しました。

そんな療育によって成長が促され石村嘉成さんは潜んでいた才能が芽を出して今があるのです。あの療育に出会ったからこそ今の今がある、ということを中心に止めたいと思います。学童保育のあでも今の保育、今の子どもたちへの向き合い方が目の前の学童っこの将来の姿や考え方に影響することを受け止めつつ今後も進んでいきたいと願っています。



損害賠償保険加入のおすすめ

子どもたちは日々の活動の中で思わぬ事故やトラブルに巻き込まれる可能性があります。万が一、他の児童や第三者にけがをさせてしまったり、物を壊してしまったりした場合、保護者の方に損害賠償責任が発生することがあります。これまではPTA全員加入の安全教育振興会賠償責任補償制度で対応できていましたが、今年度から賠償責任補償の部分が廃止されました。予期せぬトラブルにも安心して対応することができるよう、未加入の方は何らかの保険加入をおすすめいたします。（自動車保険の付帯などが手軽で安価ですむかと思えます）

4/2 カレーライス作り

4月から新入生を迎え1年生の緊張もまだ少し残る中、2日みんなでカレーライス作りをしました。カレーライスには何の具を入れる？という話から始まり、みんなで一緒にカレーの歌を歌いました。

いよいよカレーライス作りがスタート。「切る時には猫の手だよ。」という声かけをしながら、みんな慎重に、でも自信を持ちながら約40人分のカレーライスの野菜をどんどん切っていました。そして、お待ちかねのお昼ご飯。みんなで、協力して作ったカレーライスは、いつもと一味違う美味しさがあり嬉しさも倍増なお昼ごはんとなりました(^^)



4/18 イースターエッグハント

イースターはキリストの復活を喜ぶ春のお祝い。卵は命の象徴と言われ学童のあでも毎年エッグハントを楽しみます。

子どもたちの人数が増えた今年は、庭や室内のあちこちに卵に見立てた小さなお菓子入りのガチャガチャのカプセルを探す今までのやり方から大きく変わり、各部屋で与えられたミッションをクリアして穴あきの箱に手を入れて卵カプセルをゲットしていく方式。これがとてもよかった！グループに分かれて順番に移動していくのですが、どのチームもびっくりするほどチームワークがよく上級生が上手にリードする姿に感心しました。圧巻は2階の窓からのお菓子撒き。庭で受け取る子どもたちの興奮と笑顔に負けないベテランスタッフTの花咲おばさん？ぶりも見ものでした^^



4月 日々の遊び



春風心地良い午後の時間、月水金は第一公園、火木は第二公園にてドッジボールやおにごっこ、鉄棒、砂遊びなど思い思いに体を使って遊んでいます。ドッジボールでは地域の子どもたちも一緒に大盛り上がり。上級生の鋭いボールに驚きつつも、軽やかにかわして参加する1年生もいて学年問わずチームで協力して迫力あるゲームを繰り広げています。庭遊びではホッピングや手作り玉入れなど、限られたスペースでも伸び伸び楽しむのあっ子たち。

室内ではカードゲーム、LaQ、アイロンビーズ、お絵描き、読書などそれぞれのセンスを発揮し遊んでいます。LaQは今年度からですが、解説本を眺めつつ、昆虫や乗り物などの難しいアイテム製作にも取り組んでいて、その完成度の高さに驚かされます。ピースに限りがあるため、製作物の保管は1週間で金曜日に一旦壊すことになってしまいますが、また新しい作品作りに取り掛かり集中しスキルアップしていく子どもたちのたのもしさも見え感謝です。組み立てるだけではなくLaQ部品の独楽回しも開発したりと想像力、創造力も豊かな面も見せてくれています。アイロンビーズは4月の1ヶ月を通して取り組んできました。好きなキャラクターのデザインモチーフを元にしたりオリジナルでデザインや色の組み合わせを考えながらトライしたりと、色とりどりの作品が誕生しました。しばらく玄関のコルクボードに展示し、見て楽しみながらコンテストをする予定です。

子どもは遊びの天才と言いますが、学童のあの日常にも天才たちがあふれています。

